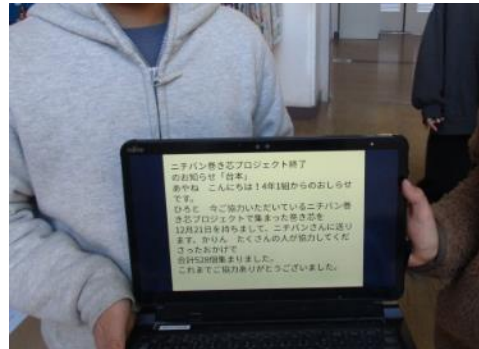


## 【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等 ～端末の文房具化を意識して～

- 端末を毎日持ち帰り、充電を各家庭で行うことを徹底することができた。充電をしっかりと行うことで登校後、端末はいつでも使用できるように各自の手の届く場所で保管している。
- 学校全体で宿題を「デジタルドリル」にする曜日を設定することができた。また、日常の家庭学習はもちろん、長期休暇中の課題にも積極的にTeamsや学習支援ソフト等を活用することができた。

## (一人一台端末の文房具化が進んでいる校内の様子)

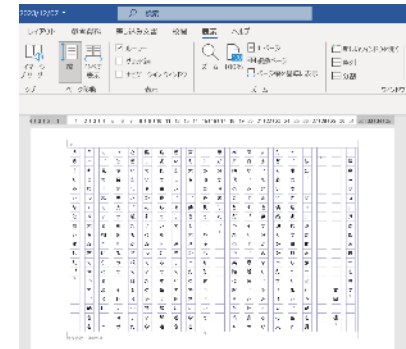


南大内小学校では「一人一台端末の文房具化」をこころがけ、筆箱を学習場所に持って行くのと同じように一人一台端末を持ち運ぶようになることを目標に学校全体で取り組んできた。

3年生以上は毎日一人一台端末を持ち帰り、充電は家庭で行うように家庭とも連携を取ることができた。【左図】

校内放送を通じて、4年生が学級の取組を発表した際の原稿は学習支援ソフトを活用して作成していた。児童に話をきくと、「先生にチェックしてもらった後、手直しが簡単にできる」という理由から学習支援ソフトを使用することを選択したと話してくれた。【右図】

## (長期休暇中の課題におけるクラウド活用)



6年生は卒業文集の下書きをする際にTeamsを活用した。そうすることで、担任は冬季休暇中であっても児童の原稿を確認することができ、アドバイスや手直しを行うことができた。

担任は、時間を有効に活用できるだけでなく児童が課題に取り組んでいるかを確認することができた。また児童は、指摘された修正を容易に行うことができた。